

氏 名：永野 みどり

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：乙第14号

学位授与年月日：2016年9月20日

学位授与の要件：学位規則第4条第2項該当

論文審査委員：主査 林 直子（聖路加国際大学教授）

副査 井部 俊子（聖路加国際大学特任教授）

副査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）

副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）

副査 徳永 恵子（宮城大学名誉教授）

論文題目：直腸がんによるストーマ保有者の装具交換の自立とストーマ周囲皮膚障害に関連する生活上のリスク要因

#### 博士論文審査結果

近年本邦における大腸（直腸を含む）がん患者の罹患率および死亡率は上昇しており、大腸がんサバイバーに対する医療専門職による外来での長期的関わりが、きわめて重要な役割を担っている。ストーマ造設をともなう直腸がんにおいては、患者の高齢化と在院日数の短縮により、退院後のストーマ装具交換に介助が必要なストーマ保有者が増加しており、さらにイレオストミー造設や化学療法の適用拡大によりストーマ周囲皮膚障害をきたす患者が増えている現状がある。そこで本研究では、ストーマ保有者の生活の質に影響するとされる「装具交換の自立」と「皮膚障害」の関連要因を明らかにすること、また明らかになった関連要因から生活上のリスクを記述することを目的とし、各リスク状況に応じた支援を提供するためのストーマ外来の機能を考察した。

首都圏の1特定機能病院で2008年から2014年にストーマ造設術を受けた直腸がん患者101名の診療記録から、患者の属性と診断名、疾患の進行度、治療内容、ストーマの状態、ストーマ装具、皮膚障害の状況、装具交換の自立の状況等の変数を抽出し、「装具交換の自立」「皮膚障害」との関連について分析した。ロジスティック回帰分析の結果、自立困難には「65歳以上の高齢者」「糖尿病患者」が、皮膚障害には「イレオストミー」「化学療法」がリスク因子として抽出された。この4つの要因の組み合わせにより、ストーマ保有者の生活における特性は、生活に制限のない「生活維持・向上」タイプ、ストーマを気にしながらの「生活維持・懸念」タイプ、時々他者による支援が必要な「生活縮小」タイプ、ストーマ管理を優先して生活する「生活制限」タイプに分類された。

審査の過程では、ストーマ外来、ストーマ装具交換の自立、ストーマ保有者の生活の特徴等のキーワードについて本論文における定義、意味を明示すること、研究目的と研究方法、結果、考察の一貫性、整合性をもたせること、研究の概念枠組みを明らかにすること、収集したデータ及び分析結果を適切に図表に表すこと、論文全体の構成と文章表現について修正することが求められた。これに対し本審査、その後の継続審議、さらに各審査員との個別の確認作業を経て指摘事項に対する修正が確認された。「本研究は、一医療機関の限定付きではあるが、100名以上という先行研究に

類を見ない 規模の後方視的データ収集・分析を通じてストーマ外来を受診する直腸がん術後患者の実態を明らかにしたこと、またいっそうの高齢化と治療法の進歩により、一時的なストーマを造設する高齢患者の増加が見込まれる昨今、本研究でストーマ保有者を生活者の視点でタイプ分類し、ストーマ外来の「術前の意思決定支援」「術後2か月以内の頻繁な自援等のケア提供」「在宅でストーマケアを提供する医療福祉専門職に対する連携とリソース機能」の機能の重要性を示唆したことから、看護ケアの質の向上に寄与する研究であると高く評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な 高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。